

重点取組分野	令和 4 年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
確かな学力	<ul style="list-style-type: none"> <li>○教科等で学習指導要領に表された育成を目指す資質・能力を明確に捉え、日々の授業改善を行う。</li> <li>○資質・能力を教科横断的に育てるために、研修を重ねる。</li> <li>○ICTの活用によって、個に応じた学びと協働的な学びを効果的に、生徒の資質・能力を育てる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○授業評価アンケート結果を踏まえ、ICTの活用を含め、各教科で授業改善を行った。</li> <li>○オンライン授業を行うなど、状況に応じて学習環境を幅広く選択ができるようにした。</li> <li>○端末を使用する場面を幅広く設定し、場面に応じて生徒自らが選択できるようにした。</li> </ul>	B
豊かな心	<ul style="list-style-type: none"> <li>○道徳を中心として、教科等での道徳教育に日常的に取り組む。</li> <li>○平和の大切さ、命の大切さを醸成するために行事等の工夫を続ける。</li> <li>○教職員と生徒がお互いに敬意を払い、尊重する風土を大切にしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○特別の教科道徳の授業を中心に、道徳教育への取組を日常的に行っている。</li> <li>○学校行事や普段の授業を中心に、平和や命の大切さについて触れる工夫を行った。</li> <li>○普段のコミュニケーションから、一方的な発信受信にならないような工夫を常に行っている。</li> </ul>	B
健やかな体	<ul style="list-style-type: none"> <li>○スポーツを「する」「みる」「ささえる」ことを大切に、運動に親しむ態度を育てる。</li> <li>○保健体育科、家庭科を中心に望ましい生活習慣や食習慣について学び、身に付けられるようにする。</li> <li>○新型コロナウイルス感染症の正しい理解を進め、公衆衛生への意識を育てる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○体育実技で「する」「みる」を中心に運動に親しむ態度の育成に努めたり、体育理論を通して運動への関わり方について学ぶ機会を作ったりした。</li> <li>○家庭科で、栄養士と連携し、食品サンプルを活用して、日々の食事内容や栄養バランスを見直したり、考えたりすることができた。</li> </ul>	B
SDGsへの取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>○生徒会活動を充実させ、学校生活における主権者教育を進める。</li> <li>○生徒が17の達成目標を意識し、世の中に働きかける行動ができるよう教育活動の工夫を行う。</li> <li>○生徒が学習していることが、世の中とつながっていることを意識させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○横浜市でも国際平和スピーチコンテスト原稿作成を通して、自分たちでできる身近なSDGsへの取り組みを考え、まとめた。代表者のスピーチを聞く機会を設け、様々な意見を聞くことで自分考えを深めた。</li> </ul>	B
いじめへの対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>○いじめ防止対策委員会を定期的に開催し、組織的な対応を継続する。</li> <li>○いじめ防止にむけて、生徒会や委員会活動を通して、生徒が自分ごととしての発信を喚起する。</li> <li>○誰もが安心して過ごせる学校づくりを目指し、生徒が相談しやすい体制を整える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○毎週、いじめ防止対策委員会を実施し未然防止に努めた。</li> <li>○毎月のアンケートによって生徒の変化を発見したり、相談につなげたりすることができた。</li> <li>○問題行動が起きた時の報告・連絡・相談、また学年を超えた情報共有を速やかに行う必要がある。</li> </ul>	B
人材育成・組織運営(働き方)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○教育課程を工夫し、時間外勤務を減らすことで、教職員自身が学ぶ時間を確保する。</li> <li>○メンターチームを有効活用し、経験の有無に関わらず学び合い、組織経営へ提案ができるようにする。</li> <li>○教職員が語り合う場を確保し、ストレスチェック指数を市平均に近づける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「学び続ける教職員」の姿勢を大切に、学校内外での研修に参加することを推奨し、実践している教職員は多い。</li> <li>○ストレスチェック指数は市の平均よりやや高めである。教職員同士は日頃からコミュニケーションをとるように努力しているが、連絡ミスもないとはいえない。</li> </ul>	B
特別支援教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学校と保護者が連携し、個別の支援計画等を常に見直し、教職員間の情報共有を確実にしている。</li> <li>○不登校や長期欠席、集団になじまない生徒の支援のため、特別支援教室の運営を全体で行う。</li> <li>○日々の教育活動をユニバーサル・デザインの視点、特別支援教育の視点で取り組む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○個別の教育支援計画、指導計画を作成し、職員間の情報共有を行った。年度途中で見直しを行い、日々の変化に対応できるようにした。</li> <li>○「和み」ルールの学習支援体制や過ごしやすい環境を整えた。様々なプログラムを通してコミュニケーションスキルの定着を図った。</li> </ul>	A
情報教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ICT端末を活用し、教職員自身が情報活用能力の向上をはかり、生徒の資質・能力の育成につなげる。</li> <li>○教科等でのICT端末の活用とともに生徒の情報リテラシーやデジタルシチズンシップの育成に努めた。</li> <li>○教員間の情報交換で、デジタル教科書の良さを生かした授業づくりに取り組んだ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○情報活用能力の育成を意識して、授業実践を行い、生徒の資質・能力の向上に努めた。</li> <li>○日々の活動や授業への取組を通じて、情報リテラシーやデジタルシチズンシップの育成に努めた。</li> <li>○指導者用及び学習者用デジタル教科書を活用し、これからの授業づくりに取り組んだ。</li> </ul>	B
キャリア教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「キャリア・パスポート」を活用し、生徒の自己調整力を育むことで自律したキャリア形成を支援する。</li> <li>○これからの職業教育の充実を目指し、職業講話や職業体験等を体系的に取り組み。</li> <li>○より良い人生を形成できるよう、生徒一人ひとりが主体的に進路選択ができるよう支援する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○3年間の系統だったキャリア教育の構築を模索しながら、各学年に応じた体験や講話を実施することができた。</li> <li>○3年間を見通して、それまでの振り返りを行い、これからの目標を立てることに「キャリア・パスポート」を活用した。</li> </ul>	B
地域連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>○地域コーディネーターと連携し、学校運営協議会設立に向けた準備を進める。</li> <li>○「スマホ&amp;ケータイ利用の約束づくり」を家庭、地域とともに推進する。</li> <li>○地域での生徒の活動支援をするための「ジュニアボランティアクラブ(仮称)」の設立を目指す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学校運営協議会を設置し、これまでの様子や取組内容を説明し、今後の取組について検討した。</li> <li>○「スマホ利用の約束づくり」を小学校や地域などと連携して今後も継続していく。</li> <li>○学校地域コーディネーターによって、テスト前の学習会や家庭科の授業補助等で地域人材をマッチングし、教育活動に協力してもらった。</li> </ul>	A
ブロック内評価後の気づき	<ul style="list-style-type: none"> <li>○支援が必要な児童が多いという小学校の抱える課題があり、特別支援教育の充実を図るために、小中間の密な情報交換(特に一人職間の)を、より充実させていく必要がある。</li> <li>○豊かな学力を育むための土台となる「知識・技能」をしっかり定着させるために、Monoxerを授業の中でも有効に活用していく。</li> </ul>		
学校関係者評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>○今年度、地域防災訓練への有志生徒の参加を募集したり、自動販売機導入に当たりルールメイキングを生徒が自主的に行うなど、そういう生徒を尊重し、支援する教職員の姿勢がある。これからのような支援・指導を継続・発展させてほしい。</li> <li>○校内ハートフル事業「和みルーム」の運営を始め、特別支援教育の充実にか力を入れていることが、生徒の落ち着いた生活を支えている一因だと感じる。</li> <li>○長時間勤務の教員が多いのは親身になって相談したり、指導したりする教職員が多いからと考えられる。</li> </ul>		
中期取組目標振り返り	<ul style="list-style-type: none"> <li>○おおむね目標の達成ができており、学校関係者からも次年度以降もこの方向で取組を進めるよう助言を受けている。</li> <li>○未達となっている長時間勤務や働き方改革については、長時間勤務となる要因を検証し、教職員全体の業務見直しなどに取り組んでいきたい。</li> </ul>		

重点取組分野	令和 5 年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
確かな学力	<ul style="list-style-type: none"> <li>○教科等で学習指導要領に表された育成を目指す資質・能力を明確に捉え、日々の授業改善を行う。</li> <li>○資質・能力を教科横断的に育てるために、研修を重ねる。</li> <li>○ICTの活用によって、個に応じた学びと協働的な学びを効果的に、生徒の資質・能力を育てる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○授業評価アンケート結果を踏まえ、ICTの活用を含め、各教科で授業改善を行った。</li> <li>○オンライン授業を行うなど、状況に応じて学習環境を幅広く選択ができるようにした。</li> <li>○端末を使用する場面を幅広く設定し、場面に応じて生徒自らが選択できるようにした。</li> <li>○期学習を中心に知識技能の定着のためにMonoxerを活用し、授業では対話的で協働的な学習を展開した。</li> </ul>	B
豊かな心	<ul style="list-style-type: none"> <li>○道徳を中心として、教科等での道徳教育に日常的に取り組む。</li> <li>○平和の大切さ、命の大切さを醸成するために行事等の工夫を続ける。</li> <li>○教職員と生徒がお互いに敬意を払い、尊重する風土を大切にしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○各教科や道徳の授業において、他者と関りながら互いの考えを尊重し合える学習活動を充実させた。</li> <li>○道徳や総合的な学習の時間、学校行事を通じた平和学習を全学年で充実させた。</li> <li>○日常から生徒の人権に配慮した指導を心掛けた。</li> </ul>	B
健やかな体	<ul style="list-style-type: none"> <li>○スポーツを「する」「みる」「ささえる」ことを大切に、運動に親しむ態度を育てる。</li> <li>○保健体育科、家庭科を中心に望ましい生活習慣や食習慣について学び、身に付けられるようにする。</li> <li>○新型コロナウイルス感染症の正しい理解を進め、公衆衛生への意識を育てる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○体育実技で「する」「みる」を中心に運動に親しむ態度の育成に努めたり、体育理論を通して運動への関わり方について学ぶ機会を作った。</li> <li>○学校保健委員会で、感染症を正しく理解し、免疫力を高めるために自分たちで実践できることを考え、全校生徒に発信することができた。</li> </ul>	B
SDGsへの取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>○生徒会活動を充実させ、学校生活における主権者教育を進める。</li> <li>○生徒が17の達成目標を意識し、世の中に働きかける行動ができるよう教育活動の工夫を行う。</li> <li>○生徒が学習していることが、世の中とつながっていることを意識させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○横浜子ども国際平和スピーチコンテストの代表者スピーチを聞く機会を設け、自分たちでできるSDGsへの取組についての様々な意見を聞くことで自分の考えを深めた。</li> <li>○各教科の中でSDGsについての考えを深め、発表する機会を設けた。</li> <li>○生徒会本部や各委員会で行えることを検討、企画し、活動や啓発ポスターに取り組んだ。</li> </ul>	B
いじめへの対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>○いじめ防止対策委員会を定期的に開催し、組織的な対応を継続する。</li> <li>○いじめ防止にむけて、生徒会や委員会活動を通して、生徒が自分ごととしての発信を喚起する。</li> <li>○誰もが安心して過ごせる学校づくりを目指し、生徒が相談しやすい体制を整える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○毎週、いじめ防止対策委員会を実施し未然防止に努めた。</li> <li>○毎月のアンケートによって生徒の変化を発見したり、相談につなげたりすることができた。</li> <li>○問題行動が起きた時の報告・連絡・相談、また学年を超えた情報共有を速やかに行う必要がある。</li> </ul>	B
人材育成・組織運営(働き方)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○教育課程を工夫し、時間外勤務を減らすことで、教職員自身が学ぶ時間を確保する。</li> <li>○メンターチームを有効活用し、経験の有無に関わらず学び合い、組織経営へ提案ができるようにする。</li> <li>○教職員が語り合う場を確保し、ストレスチェック指数を市平均に近づける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○期打合せの時間短縮や会議短縮の実現し、その時間を「常に学び続ける教職員」の姿勢を大切に、学校内外での研修に参加することを推奨し、実践している教職員は多い。</li> <li>○メンターチームを活用して、新規提案ができた。</li> <li>○ストレスチェック指数は市の平均よりやや高めである。教職員同士は日頃からコミュニケーションをとるように努力しているが、認識不足が発生している。</li> </ul>	B
特別支援教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学校と保護者が連携し、個別の支援計画等を常に見直し、教職員間の情報共有を確実にしている。</li> <li>○不登校や長期欠席、集団になじまない生徒の支援のため、特別支援教室の運営を全体で行う。</li> <li>○日々の教育活動をユニバーサル・デザインの視点、特別支援教育の視点で取り組む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○個別の教育支援計画、指導計画を作成し、職員間の情報共有を行った。年度途中で見直しを行い、日々の変化に対応できるようにした。</li> <li>○「和み」教室の学習支援体制(ICT・軽スポーツ)や過ごしやすい環境(ブレイルーム)を整えた。様々なプログラム(民間との協働制作)を通してコミュニケーションスキルの定着を図った。</li> </ul>	A
情報教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ICT端末を活用し、教職員自身が情報活用能力の向上をはかり、生徒の資質・能力の育成につなげる。</li> <li>○教科等でのICT端末の活用とともに生徒の情報リテラシーやデジタルシチズンシップの育成に努めた。</li> <li>○教員間の情報交換で、デジタル教科書の良さを生かした授業づくりに取り組んだ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○情報活用能力の育成を意識して、授業実践を行い、生徒の資質・能力の向上に努めた。</li> <li>○日々の授業や道徳の授業などの取組を通じて、情報リテラシーやデジタルシチズンシップの育成に努めた。</li> <li>○指導者用及び学習者用デジタル教科書を活用し、これからの授業づくりに取り組んだ。</li> </ul>	B
キャリア教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「キャリア・パスポート」を活用し、生徒の自己調整力を育むことで自律したキャリア形成を支援する。</li> <li>○これからの職業教育の充実を目指し、職業講話や職場体験等を体系的に取り組み。</li> <li>○より良い人生を形成できるよう、生徒一人ひとりが主体的に進路選択ができるよう支援する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○3年間の系統だったキャリア教育の構築を模索しながら、各学年に応じた体験や講話を実施することができた。</li> <li>○3年間を見通して、それまでの振り返りを行い、これからの目標を立てることに「キャリア・パスポート」を活用した。</li> </ul>	B
地域連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>○地域コーディネーターと連携し、学校運営協議会設立に向けた準備を進める。</li> <li>○「スマホ&amp;ケータイ利用の約束づくり」を家庭、地域とともに推進する。</li> <li>○地域での生徒の活動支援をするための「ボランティアセンター」の設立を目指す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学校運営協議会や学校地域コーディネーターと連携を進め、地域に開かれた教育課程を検討した。</li> <li>○「スマホ利用の約束づくり」を小学校や地域などと連携して今後も継続していく。</li> <li>○学校地域コーディネーターと連携し、テスト前の学習会や家庭科(裁縫・調理実習・沐浴体験)などの授業で地域人材を活用し協力体制を築いた。</li> </ul>	A
ブロック内評価後の気づき	<ul style="list-style-type: none"> <li>○支援が必要な児童が多いという小学校の抱える課題があり、特別支援教育の充実を図るために、小中間の密な情報交換を、より充実させていく必要がある。</li> <li>○豊かな学力を育むための土台となる「知識・技能」をしっかり定着させるために、朝モジュールにMonoxerを導入し熱心に取り組む教育効果は高い。今後は、事前・事後学習としてMonoxerを有効に活用してよりよい授業展開を行っていく。</li> </ul>		
学校関係者評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学校行事も地域行事も復活した今年度は、地域行事に積極的にボランティア参加する生徒が増え、地域からも喜ばれたり感謝されたりしたようだ。今後とも地域と学校・生徒との交流を増やしてほしい。</li> <li>○校内ハートフル事業「和み」ルールの活動として「はまっず未来カンパニー」にチャレンジする等特別支援教育の充実が図られている。</li> <li>○ICTを駆使した授業への取組も公立学校の中ではかなり推進されていることは素晴らしいので、他校への発信をしてほしい。その意味で「情報教育」の評価はAでもよいと思う。</li> </ul>		
中期取組目標振り返り	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学校関係者評価で強みとされた点をより伸ばしていきたい。</li> <li>○地域との連携が徐々に進んできている。生徒たちが自主的な活動につながるように校内の体制づくりと支援を進めていきたい。</li> <li>○職員の長時間勤務については、日ごろから改善に向けて取り組んでいるが、市人事委員会の定期監督を受け、法令違反指摘されたことから、改めて指摘事項を改善できるような具体的な取り組みを進めていきたい。</li> </ul>		

重点取組分野	令和 6 年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
確かな学力	<ul style="list-style-type: none"> <li>○教科等で学習指導要領に表された育成を目指す資質・能力を明確に捉え、日々の授業改善を行う。</li> <li>○資質・能力を教科横断的に育てるために、研修を重ねる。</li> <li>○ICTの活用によって、個に応じた学びと協働的な学びを効果的に、生徒の資質・能力を育てる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○道徳を中心として、教科等での道徳教育に日常的に取り組む。</li> <li>○平和の大切さ、命の大切さを醸成するために行事等の工夫を続ける。</li> <li>○教職員と生徒がお互いに敬意を払い、尊重する風土を大切にしている。</li> </ul>	B
豊かな心	<ul style="list-style-type: none"> <li>○道徳を中心として、教科等での道徳教育に日常的に取り組む。</li> <li>○平和の大切さ、命の大切さを醸成するために行事等の工夫を続ける。</li> <li>○教職員と生徒がお互いに敬意を払い、尊重する風土を大切にしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○各教科や道徳の授業において、他者と関りながら互いの考えを尊重し合える学習活動を充実させた。</li> <li>○道徳や総合的な学習の時間、学校行事を通じた平和学習を全学年で充実させた。</li> <li>○日常から生徒の人権に配慮した指導を心掛けた。</li> </ul>	B
健やかな体	<ul style="list-style-type: none"> <li>○スポーツを「する」「みる」「ささえる」「しる」ことを大切に、運動に親しむ態度を育てる。</li> <li>○保健体育科、家庭科を中心に望ましい生活習慣や食習慣について学び、身に付けられるようにする。</li> <li>○新型コロナウイルス感染症の正しい理解を進め、公衆衛生への意識を育てる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○体育実技で「する」「みる」「ささえる」「しる」ことを大切に、運動に親しむ態度を育てる。</li> <li>○生活習慣病や感染症の正しい理解を進め、自らが健康的な生活を実践できるような力を育てる。</li> </ul>	B
SDGsへの取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>○生徒会活動を充実させ、学校生活における主権者教育を進める。</li> <li>○生徒が17の達成目標を意識し、世の中に働きかける行動ができるよう教育活動の工夫を行う。</li> <li>○生徒が学習していることが、世の中とつながっていることを意識させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○横浜子ども国際平和スピーチコンテストの代表者スピーチを聞く機会を設け、自分たちでできるSDGsへの取組についての様々な意見を聞くことで自分の考えを深めた。</li> <li>○各教科の中でSDGsについての考えを深め、発表する機会を設けた。</li> <li>○生徒会本部や各委員会で行えることを検討、企画し、活動や啓発ポスターに取り組んだ。</li> </ul>	B
いじめへの対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>○いじめ防止対策委員会を定期的に開催し、組織的な対応を継続する。</li> <li>○いじめ防止にむけて、生徒会や委員会活動を通して、生徒が自分ごととしての発信を喚起する。</li> <li>○誰もが安心して過ごせる学校づくりを目指し、生徒が相談しやすい体制を整える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○毎週、いじめ防止対策委員会を実施し未然防止に努めた。</li> <li>○毎月のアンケートによって生徒の変化を発見したり、相談につなげたりすることができた。</li> <li>○問題行動が起きた時の報告・連絡・相談、また学年を超えた情報共有を速やかに行う必要がある。</li> </ul>	B
人材育成・組織運営(働き方)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○教育課程を工夫し、時間外勤務を減らすことで、教職員自身が学ぶ時間を確保する。</li> <li>○メンターチームを有効活用し、経験の有無に関わらず学び合い、組織経営へ提案ができるようにする。</li> <li>○教職員が語り合う場を確保し、ストレスチェック指数を市平均に近づける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○職員会議や教育課程を工夫し、時間外勤務を減らすことで、教職員自身がアップデートする時間を確保する。</li> <li>○メンターチームを有効活用し、経験の有無に関わらず学び合い、組織経営へ提案ができるようにする。</li> <li>○教職員が語り合う場を確保し、ストレスチェック指数を市平均に近づける。</li> </ul>	B
特別支援教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学校と保護者が連携し、個別の支援計画等を常に見直し、教職員間の情報共有を確実にしている。</li> <li>○不登校や長期欠席、集団になじまない生徒の支援のため、特別支援教室の運営を全体で行う。</li> <li>○日々の教育活動をユニバーサル・デザインの視点、特別支援教育の視点で取り組む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○個別の教育支援計画、指導計画を作成し、職員間の情報共有を行った。年度途中で見直しを行い、日々の変化に対応できるようにした。</li> <li>○「和み」教室の学習支援体制(ICT・軽スポーツ)や過ごしやすい環境(ブレイルーム)を整えた。様々なプログラム(民間との協働制作)を通してコミュニケーションスキルの定着を図った。</li> </ul>	A
情報教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ICT端末を活用し、教職員自身が情報活用能力の向上をはかり、生徒の資質・能力の育成につなげる。</li> <li>○教科等でのICT端末の活用とともに生徒の情報リテラシーやデジタルシチズンシップの育成に努めた。</li> <li>○教員間の情報交換で、デジタル教科書の良さを生かした授業づくりに取り組んだ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○情報活用能力の育成を意識して、授業実践を行い、生徒の資質・能力の向上に努めた。</li> <li>○日々の授業や道徳の授業などの取組を通じて、情報リテラシーやデジタルシチズンシップの育成に努めた。</li> <li>○指導者用及び学習者用デジタル教科書を活用し、これからの授業づくりに取り組んだ。</li> <li>○AIドリル「モノグサ」を活用し、授業づくりに取り組む。</li> </ul>	B
キャリア教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「キャリア・パスポート」を活用し、生徒の自己調整力を育むことで自律したキャリア形成を支援する。</li> <li>○これからの職業教育の充実を目指し、職業講話や職場体験等を体系的に取り組み。</li> <li>○より良い人生を形成できるよう、生徒一人ひとりが主体的に進路選択ができるよう支援する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○3年間の系統だったキャリア教育の構築を模索しながら、各学年に応じた体験や講話を実施することができた。</li> <li>○3年間を見通して、それまでの振り返りを行い、これからの目標を立てることに「キャリア・パスポート」を活用した。</li> </ul>	B
地域連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>○地域コーディネーターと連携し、学校運営協議会設立に向けた準備を進める。</li> <li>○「スマホ&amp;ケータイ利用の約束づくり」を家庭、地域とともに推進する。</li> <li>○地域での生徒の活動支援をするための「ジュニアボランティアクラブ(仮称)」の設立を目指す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学校運営協議会や学校地域コーディネーターと連携を進め、地域に開かれた教育課程を検討した。</li> <li>○「スマホ利用の約束づくり」を小学校や地域などと連携して今後も継続していく。</li> <li>○学校地域コーディネーターと連携し、テスト前の学習会や家庭科(裁縫・調理実習・沐浴体験)などの授業で地域人材を活用し協力体制を築いた。</li> </ul>	A
ブロック内評価後の気づき	<ul style="list-style-type: none"> <li>○支援が必要な児童が多いという小学校の抱える課題があり、特別支援教育の充実を図るために、小中間の密な情報交換を、より充実させていく必要がある。</li> <li>○豊かな学力を育むための土台となる「知識・技能」をしっかり定着させるために、朝モジュールにMonoxerを導入し熱心に取り組む教育効果は高い。今後は、事前・事後学習としてMonoxerを有効に活用してよりよい授業展開を行っていく。</li> </ul>		
学校関係者評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>○今年度、地域防災訓練への有志生徒の参加を募集したり、自動販売機導入に当たりルールメイキングを生徒が自主的に行うなど、そういう生徒を尊重し、支援する教職員の姿勢がある。これからのような支援・指導を継続・発展させてほしい。</li> <li>○校内ハートフル事業「和みルーム」の運営を始め、特別支援教育の充実にか力を入れていることが、生徒の落ち着いた生活を支えている一因だと感じる。</li> <li>○長時間勤務の教員が多いのは親身になって相談したり、指導したりする教職員が多いからと考えられる。</li> </ul>		
中期取組目標振り返り	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学校関係者評価で強みとされた点をより伸ばしていきたい。</li> <li>○地域との連携が徐々に進んできている。生徒たちが自主的な活動につながるように校内の体制づくりと支援を進めていきたい。</li> <li>○職員の長時間勤務については、日ごろから改善に向けて取り組んでいるが、市人事委員会の定期監督を受け、法令違反指摘されたことから、改めて指摘事項を改善できるような具体的な取り組みを進めていきたい。</li> </ul>		